

単元名 使って楽しい焼き物(立体)

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) ひもづくりや板づくり、手びねりなどの粘土の特徴を生かしたつくり方を理解し、目的に応じて工夫しながら作品に表すことができる。
- (2) 実際の使い方や使う場所を想像し、焼き物の形や飾りを考えるとともに、友達や自分の作品から、自分の見方や感じ方を深めることができる。
- (3) 焼成に適した粘土を用いて、主体的に立体に表す活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

05080301_001

【準備等】粘土（1 kg程度）、どべ、粘土板、手回しろくろ、たたら板、のし棒、切り糸、切り針金、かきべら、新聞紙、へら、ぞうきん

| 学 習 活 動 | 留 意 事 項 な ど |
|---|--|
| <p>1～2 焼き物について知り、自分のつくりたい形をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○身近な場所で焼き物を見たり、使ったりした経験について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・茶わん、花びん、鉛筆立て、鉢、小物入れ ★使って楽しい焼き物をつくろう ○成形の方法を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ひもづくり ・板づくり ・手びねり ○アイディアスケッチをする。 ○粘土で成形する。 <p>3 焼成したものを鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の作品について発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・つくったときの気持ち ・焼成後の作品のイメージ ・工夫したところ ○友達の作品のよさについて気が付いたことを発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書5・6上 P.24, 25 ・実際の焼き物をいくつか準備し、見せるとよい。 ・3つの成型方法について示範する。 ・焼成したときに割れにくくするためよく練って粘土の空気を抜くようにする。 ・教科書P.64, 65を参考に計画的に取り組ませる。 ・使い方や置く場所を具体的に考えさせる。 ・時間がない場合は事前にアイディアスケッチを考えさせておいてもよい。 【評】実際の使い方や使う場所を想像しながらアイディアスケッチをかく活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・焼成したときに割れにくくする条件（①よく練って粘土の空気を抜く。②厚さは均一にする。③どべで接着する。）について指導する 【評】3つの成型方法を基に、自分のつくりたい形に近づけていく活動を通して、「知識・技能」を評価する。 【評】粘土や3つの成型方法のよさや特徴を感じながら、表現を楽しむ活動の様子を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する ・焼成を業者に依頼すると鑑賞会までに時間が空くため、つくり終えた時の気持ちをメモしておくといよい。 ・焼き上がり後の様子にも注目させると焼き物のよさや美しさなどへの理解が深まる。 ・使いやすさや装飾の工夫について考えさせるとよい。 【評】自分や友達の作品を鑑賞し、表現の意図や特徴、表し方を感じとる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 【評】これまでの学習活動や作品を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 |

【 備 考 】

特別の教科道徳との関連について

「C- (17) 我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつこと」との関連が深い。焼き物をつくることを通して、日本の伝統文化に触れることから、道徳科の学習につなげたい。

他教科等との関連

地域の伝統文化を知ることや、日本の文化財について知ることは、社会科のつながりの中で捉えることができる。